

## 農業(仕事)を行う共生型デイ

長野県東御市にある特定非営利活動法人 普通の暮らし研究所は、築150年といわれる古民家を改修した施設「岩井屋」を運営している(「岩井屋」はこの古民家の屋号からきている)。岩井屋は富山型(共生型)デイサービスで、障がいのある子どもや大人、介護が必要な高齢者が世代を超えて交流できる場となっている。

### 事業所概要

営業日	月曜日～土曜日 (GW、お盆、年末年始を除く)
サービス提供時間	9時00分～17時00分
定員	通所介護：10名
職員数	34名(常勤11名、非常勤23名)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通所介護・生活介護</li> <li>・障害者ケアホーム</li> <li>・発達支援・放課後デイ</li> <li>・障害者就労支援B</li> <li>・指定特定相談支援</li> <li>・障害者短期入所</li> <li>・指定障害児相談支援</li> </ul>



岩井屋の外観と理事長兼施設長代理の岩井氏



### 「農業経験のある高齢者」×「障がい者」で農業を行う

富山型(共生型)デイサービスの「岩井屋」では、高齢者のアドバイスで障がいのあるご利用者が農業を行い、季節ごとの旬の野菜などを販売している。

ジャガイモ、タマネギ、ニンジンなどの一般的な野菜からピーツ、スイスチャードなどの新しい野菜まで80～90種類ほど生産している。仕事は土づくりからうね立て、種まき、水やり、草取り、収穫、梱包、出荷まで行っている。その中で、うね立て、種まきを得意とする人、収穫から梱包、出荷を得意とする人などに分担し、1日の作業を行っている。

出荷先は近隣の小学校やスーパーマーケット、東京方面の個人宅である。近隣のスーパーマーケットまでご利用者が行き、商品を並べる作業をしたり、宅配便の宛名書きまで行っている。

同法人の理事長兼施設長代理の岩井孝司氏は、「認知症の方も精神疾患の方も、仕事をする事で自分がまだ社会の一員だという意識を持つことがで

き、心の安定につながります。長野県は農業経験者が多く、そこから発想したのが農業でした。「岩井屋」は6次産業\*を営むことで、土づくりから種まき、水やり、草取り、収穫、梱包、商品の出荷までさまざまな仕事生まれ、それぞれに適した仕事に携わってもらうことができます。自閉傾向の子どもたちは土と水が大好きですし、畑に行き、地域に出ることが日常生活のリハビリになると考えています」と話す。

また、「岩井屋」がある東御市は全国一のクルミの産地でもあり、近隣の業者より依頼を受け、クルミ拾いやクルミ割り、割ったクルミから実と殻を分別し、それぞれを商品として出荷する仕事を行っている。今年は拾ったクルミを干す棚づくりも行い、作業はすべて障がいのある方が行っているが、高齢者の方にも作業指導をしてもらっているという。

\*6次産業は、1次産業・2次産業・3次産業を掛け合わせた産業で、農林水産物の生産・収穫(1次産業)だけでなく、加工(2次産業)、流通・販売(3次産業)まで行う



野沢菜の手入れ



クルミ拾いの様子

#### <運営上の注意点>

- ・岩井屋側から仕事を強要しない
- ・仕事のメニューをたくさん用意して、その中からご利用者に選んでもらう（仕事をすることは心の安定につながるという考えのもとで行っている）
- ・障がい者と高齢者が農業をする上で、高齢者にリーダーシップを取っていただく

#### <経営上の注意点>

- ・季節変動によるご利用者の体調管理
- ・農産物の販路の検討



## 普通の暮らし＝共生社会

「岩井屋」を始めたきっかけは、富山型デイサービスの生みの親である惣万佳代子さんの講演を聞いたことだったという岩井氏。その理念に深く共感し、障がい児（者）、高齢者など困っている人を「岩井屋」で受け入れようと考えた。

岩井氏は「社名である“普通の暮らし研究所”には私たちの思いが込められています。われわれはパズルのピースのような存在で、それぞれに補い合い、助け合って生きています。認知症を患っていて

も、身体が不自由でも、いろいろな子どもたちも、一つでも欠けると完成しない世界、それがわれわれが目指している社会“普通の暮らし”です。普通の暮らしは決して良いことばかりではありません。時にはけんかが起きたり、嫌なことが起きたりしますが、失敗しても人生の肥やしになります。そうした普通の暮らしをしていくための小社会が“岩井屋”です」と言う。



## 利用者確保 ～名刺の活用、ホームページの閲覧へ～

岩井氏は名刺を広告媒体として使っている。似顔絵入りで、思いの丈が詰め込まれており、これを地域の商店街各所に置いてもらっている。気になったら気軽に持ち帰り、検索ワード「東御市 岩井屋」でホームページを見られるようにしている。



東御市 岩井屋



## 今後の展望

共生型デイのメリットについて岩井氏は、「多角経営という面で経営がしっかりとできるということがあります。経営が安定することは、職員のモチベーションを上げ、結果的にサービス向上へとつながり、非常に大切なことです」と言う。

今後について、東御市で地域とウィンウィンの関

係を築きたいと考えている岩井氏は、「地域に積極的に出掛けていき、交流するような機会や場所を作れないかと模索中です。ご近所という第三者の目から評価を受け、“風通しの良い岩井屋”を運営していきたいと思います」と話す。

経